



月刊 おかじょうき

<http://www.okajouki.com/>

誌上句会 「0番線」

須藤しんのすけ・奈良一艘 選

2023

4



題「色」 須藤しんのすけ 選	4
奈良一艘 選	6
無人駅鑑賞「カンテラ」 むさし	8
会員雑詠集「無人駅」	11
■例月句会結果■	
おかしょうき川柳社 3月例句会	23
川柳吟行会「ぼ」	30
十和田たてがみ川柳会 2月句会報	35
■連載■	
「深艘心理」 奈良一艘	34
Infomation	38～

0番線

-OKAJOKIZEROLINE-

題「色」 須藤しんのすけ 選

【佳作】

- 侵略を続ける人の血が赤い
SLで付き切る真つ白な原野
砂浜に取り残された赤い靴
ロゼワイン今日は主役になりました
恋したら月がピンクになりました
素に戻る 雪合戦の逃れ玉
さつちゃんも春色のリボン揺らしてる
モノクロの世界にお邪魔しています
色っぽくおなりになった寺の松
もう寝ます ぬればぬるほど黒になる
責任感の強い三色スミレです
英雄じゃないが色々飼っている
色の無いクレヨン特に邪魔はない
お色気作戦決行致します
小道ゆく忘れかけてた風の色
ざっくりと裂いて七色春キャベツ
- 埼玉県 岡村水無月
島根県 石橋芳山
大阪府 笠嶋恵美子
青森県 まきこ
佐賀県 真島 涼
静岡県 米山明日歌
滋賀県 中島順子
佐賀県 真島 芽
愛知県 中川喜代子
青森県 高木まあこ
高知県 小野善江
愛媛県 大西 進
秋田県 田久保亜蘭
愛媛県 吉原 美佐
滋賀県 大谷のり子
秋田県 一 帆

- 足跡は夕日通りに残される
色ざんげそれはよろしゅうござんした
水色をくださいいちようどふたり分
赤青黄にぎやかすぎる駅ピアノ
- 青森県 笹田かなえ
秋田県 佐藤春子
徳島県 徳長 怜
青森県 葉 閑女

【秀逸】

- 水彩の少女くすくすミルクパン
紫陽花が心変りを偽証する
ニンゲンに赤鉛筆がよく似合う
- 大阪府 宮井いずみ
青森県 高木まあこ
佐賀県 真島 涼

【特選】

- なんといわれましてもそらはそらいる
- 愛媛県 吉松澄子

【特選】 言い訳のような前半は、後半の「そらはそらいる」を確固たる物にする為の布石。同調圧力に負けない自信を感じる。

【秀1】 赤鉛筆は添削用。生きて

選評

いる間ずっと添削が必要なのかも知れない。カタカナ表記のよそよそしさが効いている。

【秀2】 花言葉は「移り気」「浮気」。他に「愛情」「元氣」「寛容」とも。

須藤しんのすけ

やっぱり紫陽花は嘔吐きである。

【秀3】 現代版フェルメール「牛乳を注ぐ女」。ミルクパンから微かにミルクが香る。

0 番線

選 一艘 奈良「色」 題

【佳作】

- シヨッキングピンクジェネレーションギャップ
クレヨン二十四色春ラララ
色ざんげそれはよろしゅうござんした
そこはかとなく香るさくら色の殺意
色足して足して無色になつてゆく
さつちゃんば春色のリボン揺らしてる
そのことは秘密はちみつ色の村
襟足と鎖骨で飼っている黒子
負けられんパンツは赤と決めている
モノクロの景色きらきらみんないた
伝説の白はゼリーに抱かれてた
おかまいなく、これから澄んでいくつもり
サプリメント説得力のない色だ
ニンゲンに赤鉛筆がよく似合う
色つぼくおなりになった寺の松
定年後は淡紅と思つてた
- 愛媛県 吉松澄子
佐賀県 真島美智子
秋田県 佐藤春子
愛媛県 田中なお
大阪府 岸井ふさゑ
滋賀県 中島順子
大阪府 宮井いずみ
青森県 夏草ふぶき
滋賀県 中島順子
滋賀県 大谷のり子
愛知県 安藤なみ
秋田県 斎藤泰子
青森県 吉田吹喜
佐賀県 真島 涼
愛知県 中川喜代子
青森県 村上あつこ

- 春色のおしくらまんじゅうミモザの黄
人道的武器などなくてブーツは赤
モンローのホクロはイチゴジャムのアレ
見間違う位置に必ずある黄色
- 石川県 石倉多美子
青森県 滋野さち
愛媛県 大内せつ子
奈良県 ひとり静

【秀逸】

- 水色をくださいいちようどふたり分
どつちみち水色瞳閉じなさい
空耳のむこう色直しのむこう
- 徳島県 徳長 怜
佐賀県 真島久美子
奈良県 ひとり静

【特選】

- 足跡は夕日通りに残される
- 青森県 笹田かなえ

【特選】自身の足跡、つまり生き様が赤い夕日に照らされて、くつきりとぎざまれているのが見えます。三丁目の夕日の最新版を一本見させて頂きました。

選 評

【秀1】結婚式でのお色直しの本来の意味は白無垢から柄物に変えて相手の家に染まるという意味なのだそう、空耳のむこうを対比させたのが意味深でした。

奈良一艘

【秀2】【秀3】に共通している水の色は無、あるいは死でしょうか。同じ水色でも少し違うようです。それぞれの水色の切り取りが秀逸でした。

【0番線「色」：投句者62名】石倉多美子・柳本恵子・高木まあこ・夏草ふぶき・宮井いずみ・金瀬達雄・村上あつこ・佐藤春子・松木慎吾・安藤なみ・中川洋子・岸井ふさゑ・岩根彰子・斎藤泰子・立花真策・葉 閑女・坂本清乃・芝岡かんえもん・岡村水無月・まきこ・徳長 怜・渡邊こあき・木口雅裕・田久保亜蘭・辻井洋子・みつ木もも花・大谷のり子・小林茂子・山内房子・まみどり・

小野善江・中川喜代子・旅男・宮本彩太郎・吉松澄子・米山明日歌・峯島 妙・石橋芳山・大西進・城後朱美・田中なお・鳴海賢治・中島順子・滋野さち・笹田隆志・大内せつ子・真島 芽・真島 涼・真島美智子・真島久美子・笹田かなえ・田中 薫・守田啓子・吉田吹喜・吉原 美佐・熊谷冬鼓・一帆・ひとり静・青砥和子・笠嶋恵美子・郷田みや・しばたかずみ

カンテラ

ぼんち

3月の例月句会がいつもより活気に満ちていたように思います。

それは、秋田県から一帆さんと斎藤泰子さんが駆けつけてくれたからで、また、県内外からの投句が次々と入選するのでそのように感じたのかもしれない。

川柳は座の文芸、句会が賑やかになるに越したことはありません。

新型コロナウィルスの感染が治まって、句会への参加者が一層増えてくれることを願っています。

それでは、カンテラに明かりを点しましょう。

人間を愛して少し傷ついて

柳谷たかお

枯れそうな川の流れの中にいる

吉見恵子

やさしくてさみしくてまちのすみっこ

鳴海賢治

鳴海賢治さん、ひらがなだけの句もいいですね。ふつと、高田寄生木さんを思い出しました。全部ひらがなだと読みづらいのですが、賢治さんのこの句は読みづらくなく読み間違わないように作られていて、さすがですね。

B群

クリスマスツリーに下げる信長の首

笹田隆志

鹿の目が濡れて説得されそうだ

ひとり静

三角な雨にゆるりと濡れている

まきこ

思い切りガトーショコラな午後にする

辻井洋子

音たてて心の骨は折れるもの

吉田州花

我が春はインコース低めでおわる

芝岡かんえもん

陸橋が立ちあがる気になっている

安藤なみ

海馬に隠れてた人夢で見つけ

四ツ屋いずみ

本物の春だ小舟がやわらかい

守田啓子

A群

○1×2△3でまあ良いか

村上あつこ

石を蹴る足があんなに痛いとは

渡邊こあき

淋しくて時たま投げる手榴弾

瀧尻善英

だんだんと付箋まみれになる四月

斎藤泰子

これからもへっぴり腰のままでしょう

熊谷冬鼓

手鏡で姉に似ている人に会う

夏草ふぶき

教室で少し多めに吸う空気

須藤しんのすけ

お別れでしょうか花火が綺麗です

石橋芳山

見送ってばかりかざした手も寒い

きさざぎ彼句音

耳鳴りは鬼のため息かも知れぬ

三浦蒼鬼

春の顔して隣の猫が来る

柳本恵子

相席のサロメ・メドゥサ・ローレライ 葉 閑女

葉閑女さん、「サロメ」は「ガリラヤの太守ヘロデⅡアンティパスの姪で、洗礼者ヨハネの首を所望した人」で、「メドゥサ」は「ギリシア神話のゴルゴン3姉妹の一人で蛇の頭髮を持ち、これを見るものを石に化した」怪物、「ローレライ」は「ライン川中流の右岸にそびえる巨岩およびその岩上に憩う妖女で、その歌声に魅せられた舟人が舟もろともに沈むという伝説の人」ですよ。そんなとてつもなく恐ろしい女達が「相席」って、お友達なの？石にされてしまったり、首をくれと言われたり、川に沈められたりしない？

C群

モモヒキに不当な利益隠してる

小野五郎

掻き揚げのせいだ直滑降な舌

岩根彰子

産廃と今度一緒に飲みに行く

田久保亜蘭

尿意頻繁失漏腰痛除菌ジェル

奈良一艘

小野五郎さん、「モモヒキ」は「股引」で、広辞苑に『①「さるまた」に同じ。②両の股を通してはく狭い筒状の下ばき。』と出ているアレですよ。『さるまた』は「猿股」で『男子が用いる腰や股をおおう短いももひき。さるももひき。西洋禪(ふんどし)。』(広辞苑)。五郎さんて、実はヤバいことやって「不当な利益」を得ていて、それを「股引」に隠していたのですか。全然そう見えません。人って分からないものですね(汗)

岩根彰子さん、「直滑降な舌」って凄いですね。生まれて初めて聞きました。「直滑降」はスキーで斜面をまっすぐにすべりおることですよ。きつともの凄い早さでおしゃべりできるんでしょうね。それが、「掻き揚げのせい」とは魂消しました。時々ビールのつまみにしている「掻き揚げ」食べるのやめようかな。

田久保亜蘭さんは、「産廃」さんとお友達なのね? 「産廃」って、「産業廃棄物」のことでしょ? 燃えがら、汚泥、廃油なんてのもそうですね。もちろんこの「産廃」は比喩でしょうけど、「産廃」のような人ってバツチくないですか? 亜蘭さんも「産廃」ってことではないですよ

ね(汗)

奈良一艘さん、「尿意頻繁」って「頻尿」なのかな? 「頻尿」は広辞苑に『排尿の回数が増加した状態。尿量が変わらない膀胱炎など尿路感染によるものや神経性のものと、多尿に伴う糖尿病などによるものがある』と出てきます。「失漏」は私の持っている辞典に出て来ませんが、自分の意思とは関係なく尿などが漏れてしまうことかな? 「尿意頻繁」「失漏」「腰痛」と来て、手の消毒用「除菌ジェル」へ屈折するってどうしたんでしょう。ところで、この句は名詞だけで構成されていますが、これは尾藤三柳さんが「一般には虚字(動詞・形容詞・副詞・助詞)が多く使われた句に冗長性が働きやすく、実字(体言)が多いほど締まりやすいとされる」と「ことば110番」に書いていることと関係あるのでしょうか? あるんでしょうね。昔、三柳さんが蟹田町に来たとき「名詞だけで句を作りたい」と言っていたのを思い出しました。

(了)

おかじょうき川柳社会員雑詠集

無人駅

★無人駅3月月間賞

ベッドからルビコン川の水の音

奈良一艘

小野五郎【おのごろう・青森県青森市】

職人肌の「コレハロクオンデス」
モモヒキに不当な利益隠してる
真向いの優先席にサガルマタ
亀の甲羅を夕陽が刺している
後期高齢なにげに反抗期

先月号のお気に入り
干し鱈になった母さん首に巻く
夏草ふぶき
ぎよっとした。ノックアウトさせられた。

金瀬達雄【かなせたつお・富山県高岡市】

シャーマンを目指してずつと病んでいる
姉と遭う回れ右する妻もする
山姫に岩を落とされ笑む安吾
東京とロスアンゼルスに架ける橋
配給の班長ならば立候補

先月号のお気に入り
チャーシュー大盛りミサイル飛んで来る
宮井いずみ
ふだんはラーメンの並？

斎藤泰子【さいとうたいこ・秋田県大館市】

抑止力対抑止力そうかなあ
正しいを生きても問題は起きる
走り出すひりひり青い言の葉で
死に際を流されながら考える
だんだんと付箋まみれになる四月

先月号のお気に入り
土壇場がやわらかすぎて飛べません
守田啓子
やわらかすぎる土壇場ってどんなでしょうね・眠れな
くなります・

坂本清乃【さかもときよの・青森県蓬田村】

高値の卵びつくりひやくり止まらない
風と手をつないで春の散歩道
ポイントの不足で閻魔に却下され
独り居の無口がむせる鍋のつゆ
屋根の雪落ちて青空広くなる

先月号のお気に入り

きさらぎ彼句吾【きさらぎあくあ・青森県弘前市】

見送ってばかりかざした手も寒い
移り香も残り香もセーターほどく
さよならの重さにズルズルと斜陽
足湯で開花した第七のチャクラ
羽衣だったのよあの夜の囁き

先月号のお気に入り
つきつめてゆけば水の音ポトリ
奈良一艘
「ポトリ」になれるまでどんなにジタバタすることが、で
もジタバタがあるから面白いのだ。

熊谷冬鼓【くまがいたうこ・青森県青森市】

ピンボケの眼鏡が数式解きたがる
気配りは期待しないで解凍魚
パスワード忘れそうです春の錆
これからもへっぴり腰のままでしょう
聞き役は味しみしみの大根に

先月号のお気に入り
お客様の中にワタシはいませんか？
Sin
あらうう人ほど手が拳がってますが。

笹田隆志【ささだたかし・青森県青森市】

初氷妻を赦した朝でした
後ろ指さされつ放しの蠅叩き
本能寺から落ちてくるまで木を揺する
賞味期限切れの小指から発火
クリスマスツリーに下げる信長の首

先月号のお気に入り
テロリスト桶屋奇應丸処方せよ
宮井いずみ
こんな傑作を眼にすると、川柳をやめたくります。脱
帽です。

芝岡かんえもん【しばおかかんえもん・神奈川県横浜市】

我が春はインコース低めでおわる
わたくしの春を引っ張り出す男
あいまいな男の放つ鼻濁音
台形を無理難題の丸にする
さあ出ますふところにいる満月が

先月号のお気に入り
重箱の四隅で骨折しましたの
岩根彰子
とつても笑えました。わたしも気をつけないと。

城後朱美【じょうご あけみ・福岡県八女市】

六十七こんなにかくなつた冬
わがままな母それでも母が好き
施設は切り札と足取りは軽い
どうせどうせと頑張りすぎるハイキング
友からへ返信は一言了解の「り」

ペンネーム変えて生き方変えてみよ 村上あつこ
直木賞狙うペンネームは決まっている。変えられない。

Sin【しん・青森県外ヶ浜町】

最初はグー で産まれたはずなのに
ラッキーアイテムは紫のため息
ペットボトルにオータニさん溜めがち
カラカラとグラスを振って呼ぶジブン
誰が出来損ないのソメイヨシノやねん

記憶にはない人映すべつこう 米山明日歌
誰かを忘れることは悲しくもあり、別れの辛さから逃れるためでもある。

田久保亜蘭【たくぼあらん・秋田県五城目町】

百点満点はまだ産んでいない
産廃と今度一緒に飲みに行く
バチカンかサバカンかまだ決めてない
教官にするにはチョット卵焼き
赤点をとるなんと青空だろう

先月号のお気に入り

田中薫【たなかかおる・青森県弘前市】

オブラート久しく沈んでみようか
氷河期を飲み込んだ母の懐
爛漫か高清水父よ飲みますか
しっかりと家族しっかりと受け継ぐ
傘をくるくる思い出に浸つちやう

他界から往復八ガキやってきた 田久保亜蘭
欲しいです。

須藤しんのすけ【すとうしんのすけ・青森県弘前市】

桃色のクレヨンで描くハルウララ
珈琲は嫌いフレンチ・キスがいい
あの人を愛するための時間です
教室で少し多めに吸う空気
ハミングかソフランかで迷う毎日

尻屋崎へミングウェイが泳ぎだす 小野五郎
尻屋崎はカリブ海と繋がっているんだなあ

瀧尻善英【たきじりよしひで・青森県八戸市】

重箱の隅をほじくり本能寺
納豆を掻き混ぜ平和語り合う
どの道もゴールはキミと信じてる
淋しくて時たま投げる手榴弾
そう来たら想定内の第二案

じゃが芋の発声練習始まるよ 熊谷冬鼓
じゃが芋の芽の穴の大きさや形で、音響の違いが出てきそう！

旅男【たびお・青森県五所川原市】

雪のむふむふ焼き芋もふん大寒波
パカッと割れば今宵もマキは炎上す
コンと咳コンコンと咳席が空く
ムンムンが来るおつちゃんのおつちゃん
おつちゃんは次に降りますよチンチン

裸木に掛かる三日月は雄弁 熊谷冬鼓
冴えた三日月が、今日の私に引つかった。でも、抗弁はしないで置く。裸木ももう直ぐ根が開くから。

辻井洋子【つじいようこ・青森県青森市】

ため息を羽毛布団が包み込む
消えて行く昆虫食のその前に
戸棚には鬼の日記がちゃんと居る
マニュアルがあつて迷子の魚座です
思い切りガトーシヨコラな午後にする

先月号のお気に入り

土田雅子【つちだまさこ・青森県青森市】

ラッピングほどけば出ずる春の妖精
軟骨のすり減り具合春うらら
ファインダー覗けばたんぽぽ大合唱
ふとえぐみ遺して春の目玉焼き
春風のウイंक訣れ告げに来る

先月号のお気に入り

奈良一艘【ならいつそう・青森県弘前市】

着せ替え人形がひとり介護度は5
オミクロンが萎えてセラミックな夜明け
尿意頻繁失漏腰痛除菌ジェル
三度目のダウトはハシビロコウの嘴
ご注文は兎ですか耳ですか

先月号のお気に入り
そもそも腐りはじめは九月から 米山明日歌
オーマイガー！そやったんか。そりや難儀なことぢやな。

夏草ふぶき【なつくさふぶき・青森県青森市】

手鏡で姉に似ている人に会う
始まりも終わりも同じ水の中
来世ではダイヤモンドになるつもり
バス動く手術可能という晴れ間
早足が増え病室の花凍る

先月号のお気に入り
ふりむいて欲しくて割れたしゃぼんだま きざらぎ彼句香
しゃぼんだまが割れる時の音って、そついうことだった
んですね。

鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

ありのままにもういいかいもういいよ
やさしくてさみしくてまちのすみっこ
またしても主役ですから生き返る
トイレに行きたくなるほど好きな海
その続きあしたにしますさようなら

先月号のお気に入り
何度謝れば夜が明けるのか きざらぎ彼句香
やはり、人間は希望を持つことが。

ひとり静【ひとりしずか・奈良県大和郡山市】

面倒な線になりそう蛇の目傘
鹿の目が濡れて説得されそうだ
一面の菜の花ピリオドが消えた
相談は無料 浜辺診療所
そのひとつは猫が教えてくれたこと

先月号のお気に入り
満ち欠けを忘れた頃にたずね人 まみどり
もう少し早く逢えることができたら・・・

まぎん【まきこ・青森県青森市】

氷上を転がる先の有頂天
哀しみは天井裏に隠しとく
戦いは明日だってよ僕カラス
三角な雨にゆるりと濡れている
いつだってあなたの嘘は見抜けない

先月号のお気に入り
サザンカサザンカ脳内ゴミ屋敷 守田啓子
脳内ゴミ屋敷かなるほどすっきりとした言い訳ができたね。

ひらく【ひらく・青森県蓬田村】

横殴りの雪に透けて見えてる春の色
あちこちに星座が光る日記帳
ヤマセなら日記にたと書いてある
朝一番に飲む白湯にある天気図
春近し本屋に向かう種買いに

先月号のお気に入り
流星の産み方龍の捉え方 宮井いずみ
知りたい。夢がある。ワクワクする。

まみどり【まみどり・青森県黒石市】

あえいうえおお春へひとつ飛び
滑舌の悪さはきつと厚着のせい
防寒を一枚脱いでたてちとた
は行から上げるアルコール度数
酔うほどに滑らかなになるらるるる

先月号のお気に入り
金太郎飴あなたの顔はもう飽きた 米山明日歌
でもさ、のっぺらぼうなら怖くない？

三浦蒼鬼【みうらそうき・青森県黒石市】

微かな息を虹の橋まで見届ける
綺麗事など要らない取り敢えず前へ
耳鳴りは鬼のため息かも知れぬ
滅塩は笑い泣きより泣き笑い
あの日の赤い音が脳裏を離れない

先月号のお気に入り

宮井いずみ【みやいいずみ・大阪府大阪市】

エモいつて言うな後ろのポップコーン
鉄棒にかかったままの7の顎
崩れ落ちた造成地からロバの耳
真実はハエトリソウの喉である
訳ありの林檎すつかりひな祭り

先月号のお気に入り

白いカラスは醤油の隣って言ったよね Sin
チルドルームの中ですよ、腐りやすいから。

村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

記憶ダダ漏れ思い出せないことばかり
溜まっていく消化出来ないものばかり
もうすでに賞味期限が切れた脳
泥沼に落ちて静かになつた象
○1×2△3でまあ良いか

先月号のお気に入り

さよならになれたでしようか赤い糸 芝岡かんえもん
赤い糸にもさよならはやってくるんですね

守田啓子【もりたけいこ・青森県三沢市】

雪掻きが終わる乗り合い小舟着く
蝶のように方程式のように乗る
本物の春だ小舟がやわらかい
縄文に耳の欠片を取りに行く
本丸の石垣修理ダリのヒゲ

先月号のお気に入り

つららになってしまったちぶさ でも乳房 きざらぎ彼句香
え〜 ほんとですか!?

柳本恵子【やなぎもとけいこ・奈良県奈良市】

山折り谷折り山折り春ができる
春の顔して隣の猫が来る
桜咲くまでスクロール続く
花冷えのステージさよならだけ残る
鬼ごっこいつつも鬼のまま終わる

先月号のお気に入り

悪になり走るか虚無で倒れるか 金瀬達雄
やっぱり悪に憧れます。

柳谷たかお【やなぎやたかお・青森県外ヶ浜町】

背負う荷を青空軽くしてくれる
人間を愛して少し傷ついて
プーチンが暗殺される愛である
みちのくにぞつこん惚れて令和行く
星空はきつと救いの神である

先月号のお気に入り

葉閑女【ようかんによ・青森県青森市】

卯月です鬼の出番はありません
春愁やイワンの馬鹿と四月バカ
たんぽぽと碁石が父を呼びに行く
目覚めればやはりみにくいアヒルの子
相席のサロメ・メドウサ・ローレイ

先月号のお気に入り

寒い日が暖かくなるクレヨン画 柳谷たかお
クレヨン画のぬくもりに共感。

吉田州花【よしだしゅうか・青森県青森市】

音たてて心の骨は折れるもの
柳に風だったはずだったはず
一步出て亡母の椿を見あげよう
春には春のほのかな香り女なら
残された心細さのまま四月

先月号のお気に入り

じゃが芋の発声練習始まるよ 熊谷冬鼓
身を削って発声練習をしていたとは。

吉田吹喜【よしだふぶき・青森県弘前市】

三寒四温空気のぱりつと割れる朝
完璧なゼロにだなんてイヤですよ
お散歩は下りを楽しむのがコツ
溜息をつけて全身しぼませる
残念ちらつと閃いたんだけど

先月号のお気に入り
重ね着をしながら消えていくわたし 辻井洋子
忍者のようですね。面白いですね。私もそうしたいです。

吉見恵子【よしみけいこ・青森県青森市】

枯れそうな川の流れの中にいる
鳥たちが消えて二月の雪の籠
お説教の亡母の時計が見つからぬ
大寒のバースデーカード・フリージア
吹雪くドア押せばアリスのティーパーティ

先月号のお気に入り

四ツ屋いずみ【よつやいずみ・北海道札幌市】

背後から「デジタルデトックス」とこだま
あと2歩で悪循環のゲートです
海馬に隠れてた人夢で見つけ
お雛様35日ごめんね
雪道の運転どんな顔してる

先月号のお気に入り
寄書きに赤ペンで書くパスワード 須藤しんのすけ
え、いいの？でも、他人には何のパスワードかわからな
いか。やってみます。

米山明日歌【よねやますか・静岡県長泉町】

欠点を二つあげられ捻れてる
火の匂い嗅ぎたくなつて抱きしめる
真相の離しどころがわからない
パセリからクレソンになる道すがら
どこからが春ガラスで硝子こわす音

先月号のお気に入り
ついに鳥は延長コードだけおいて 守田啓子
だいたい鳥に延長コードの取り合わせが・・・あとが、
すごく気になります。

渡邊こあき【わたなべこあき・青森県青森市】

石を蹴る足があんなに痛いとは
躓いたこんなに低い縁なのに
へんな人いつのまにやら必需品
五年ぶりどんな顔して会いますか
春ですなそんな女のひとりごと

先月号のお気に入り
取り敢えずの分だけ出しておく気力 土田雅子
気力も体力も小出しにしないと持たなくなりましたよ。

石橋芳山【いしばしほうざん・島根県松江市】

一年が過ぎた赤紫の花
お別れでしようか火花が綺麗です
不死身つて何だかそれはリサイクル
恵方巻両手にしばき合っている
後ろめたさ一杯抱いてポステイング

先月号のお気に入り

安藤なみ【あんどなみ・愛知県瀬戸市】

黒板の裏は真紅か桃色か
陸橋が立ちあがる気になってる
目的地までは麻酔を効かせつつ
雑巾の切れ端にある自尊心
生野菜食べて野菜に叱られる

先月号のお気に入り
手のひらに乗るよな婆ちゃん肉喰らう 夏草ふぶき
鶏の唐揚げをちよこつと食べるのではなくて、血の滴る
よつな肉を喰らう。いい想像と良くない想像が錯綜中！

岩根彰子【いわねあきこ・京都府京都市】

生い立ちをこすればチャーハンの蓮華
掻き揚げのせいだ直滑降な舌
厄介な裏木戸柿の種の出番
さてさてとテイクアウトの金太郎
鍋つかみべろつと現わるおやゆび姫

先月号のお気に入り
言葉つてとつても汗をかくんだよ 芝岡かんぞん
拭いてもぬぐっても吹きでる汗。

上村夢香【うえむらゆめか・山口県岩国市】

コンサートキウを唄うさだまさし
無常の風愛しい人をまた誘う
雪の朝百人一首どつぷりと
癖かしらすぐに謎解きしたくなる
掌にこつそり夢を隠し持つ

の月号の
先月号に
お気に入り

片思いその別名は無人駅 村井規子
はっとさせられました。無人駅は増えるばかりです……。

むさし【むさし・青森県蓬田村】

モアイ像が挟まっていた右奥歯
山も川も野原も雲もなでてやる
街角でティッシュをもらうウルトラマン
目を閉じてホワイトアウトを抜け出した
小説の終わりのティッシュで拭いた跡

無人駅は自由な発表の場です。
未発表作品5句をお寄せください。
また、お手元の最新号から
お好きな作品とそれに対する
簡単なコメントもお寄せください。

女子会へ

3月4日（土）午後1時～ アウガ5F小会議室

▼出席者（17名）

守田啓子・小野五郎・熊谷冬鼓・葉閑女・野沢省悟・斎藤泰子・
一帆・渡邊こあき・きさらぎ彼句吾・奈良一艘・笹田隆志・夏
草ふぶき・原口健二・むさし・須藤しんのすけ・田中薫・Sin

▼投句者（17名）

安藤なみ・金瀬達雄・米山明日歌・柳本恵子・宮井いずみ・吉
松澄子・岩根彰子・吉田吹喜・旅男・城後朱美・石橋芳山・芝
岡かんえもん・郷田みや・鳴海賢治・まきこ・坂本清乃・まみ
どり

おかじょうき川柳社

3月例会

宿題『桃』

青森県三沢市 守田啓子 選

【佳作】

まだ内緒ですが孫が産まりました
 どんぶらこ桃を割ったらプラのゴミ
 パックリと割れた根性無しの桃
 桃太郎という赤鬼に会ったことがある
 桃缶を開けて小さく悔いている
 ピンクのオーラ高田純次が散歩する
 自画像に桃を足しても北を向く
 笑うこと泣くこと死ぬことピーチパイ
 そうねえと思わせぶりの桃の花

須藤しんのすけ

野沢省悟

夏草ふぶき

S i n

斎藤泰子

渡邊こあき

きさらぎ彼句吾

奈良一艘

斎藤泰子

囚人にも桃にもなれず弾くピアノ

フトツ桃に触れるニーチェの薬指

白桃の産毛とZ世代の蒙古斑

コロナ禍のすももももも卒業す

やけに薄れた桃の香りのハグだなあ

桃の花ぼろぼろけじめをつけましょう

葉 閑女

野沢省悟

奈良一艘

熊谷冬鼓

きさらぎ彼句吾

渡邊こあき

【秀逸】

桃による津波の心配ありません
 ミサイルはいらない桃をひとつくれ
 おばさんからおばあさんへところがる桃

小野五郎

むさし

野沢省悟

【特選】

コミュ障の小さな桃を渡される

須藤しんのすけ

『コミュ障と桃のとり合わせが絶妙。気配りのできるあなただから渡されたのですね。』

宿題『桃』

青森県青森市 小野五郎 選

【佳作】

紙パンツ菊池桃子は穿いている？
 桃井かおりを胡坐のなかで泳がせる
 将来はモモレンジャーになるつもり
 弥生の海に寄せては返す桃の種
 ソーシャルでディスタンス桃は桃のまま
 桃太郎になるはずだった三男坊
 やけに薄れた桃の香りのハグだなあ
 コミュ障の小さな桃を渡される
 熟れた桃さよならだけが人生だ

原口健二

笹田隆志

須藤しんのすけ

熊谷冬鼓

一 帆

夏草ふぶき

きさらぎ彼句吾

須藤しんのすけ

守田啓子

プチプチを潰す桃井かおりゴツコして

奈良一艘

桃どんぶらこ桃どんぶらこ父は闇

笹田隆志

桃缶を開けて小さく悔いている

斎藤泰子

静電気ルルルと桃の花咲かす

熊谷冬鼓

どうしよう桃井かおりの乱反射

むさし

桃缶を開ければ憲法第九条

むさし

【秀逸】

笑うこと泣くこと死ぬことピーチパイ
 桃太郎という赤鬼に会ったことがある
 フトツ桃に触れるニーチェの薬指

奈良一艘

S i n

野沢省悟

【特選】

ミサイルはいらない桃をひとつくれ

むさし

『簡潔・ストレートな叫び。訴えるものが大きい。』

宿題 『飾る』

青森県弘前市 須藤しんのすけ 選

【佳作】

縁切った人を並べた飾り窓
飾り物でいようか月はまだ遠い
片方のイヤリング置く飾り棚
必死とは思わぬクジャクの飾り羽
この歳になると涙は飾りです
花吹雪で飾る 行間の寒さ
モスキート音させてピアスの穴が開く
一糸纏わぬおとこに春の雪が舞う
愛されたことを知ってる薬指
前期高齢ちよい見せのラメつけてみる
階段にガラスの靴を残す夜
有名な方だものきつと芸術よ
素颜です誰も気づいてくれません
着飾って行けるとこまで行ってみる

夏草ふぶき
まきこ
渡邊こあき
熊谷冬鼓
吉田吹喜
米山明日歌
奈良一艘
野沢省悟
一 帆
熊谷冬鼓
柳本恵子
旅 男
まみどり
吉田吹喜

着飾った雛が戻らぬ夜夜中
失恋の硬いところから飾る 春
黄緑の髪ばあちゃんは反抗期
スプリングハズカム粉飾決算
耳たぶの穴から見えるカシオペア
雛飾る少女のような声出して

柳本恵子
芝岡かんえもん
宮井いずみ
吉松澄子
石橋芳山
葉 閑女

【五客】

ひな壇に私を飾るご提案
山手線 飾り始める女たち
あとがきを飾ると溶けてしまいます
着飾った昼間の月は出禁です
目立たないように着飾る金魚です

吉田吹喜
芝岡かんえもん
郷田みや
夏草ふぶき
郷田みや

【人位】

装丁は桜吹雪よ 逝きなさい

きさらぎ彼句吾

【地位】

知らんぷりして着飾った人を踏む

夏草ふぶき

【天位】

ひな祭りお内裏様は消えたまま

まきこ

※ 年に一度くらいは二人つきりにさせてあげましょよ。

宿題 『歌』

青森県青森市 渡邊こあき 選

【佳作】

断ち切り方と百人一首の覚え方
平和ですどこでも国歌歌えます
メロディーを歌いたかった二重唱
デュエットのハモる方なら知っている
一人歩きしている校歌は三番
息継ぎの難しそうな恋の歌
謳ってやろうじゃないか収骨の箸よ
雪解けが歌いはじめた 春が来た
次の角曲がればマタイ受難曲
まじろみの窓辺へ不意にレクイエム
数え唄六つあたりで蹴躓く
議案1「森進一のビブラート」
半音を下げたら雲が晴れました
緊張をすると鼻歌出るんです

守田啓子
熊谷冬鼓
吉松澄子
須藤しんのすけ
郷田みや
芝岡かんえもん
きさらぎ彼句吾
田中 薫
葉 閑女
葉 閑女
斎藤泰子
むさし
芝岡かんえもん
守田啓子

塗り絵したくなる母の子守唄

S i n

にくんだりだきしめたりして子守唄

一 帆

合いの手がとても上手な肩甲骨

夏草ふぶき

泡立ちがいい日は音程外さない

夏草ふぶき

深手には中島みゆきが効くらしい

熊谷冬鼓

いつの間に 演歌の似合う顔になる

吉田吹喜

【五客】

せめて最後に雲ひとつない挽歌
動かない手だが時々歌ってる
白線を曲げないように応援歌
どの曲もキーが合わない泳げない
七十番の歌詞まで吹雪く夜でした

きさらぎ彼句吾
夏草ふぶき
吉松澄子
宮井いずみ
きさらぎ彼句吾

鱗剥ぐときに唄っているらしい

野沢省悟

【地位】

喉仏あたりで歌を盗まれた

石橋芳山

【天位】

歌い出し遅れぬように梅さくら

斎藤泰子

※ 順序よく春になってほしいですね。

宿題 『自由詠』

青森県外ヶ浜町 Sin 選

【佳作】

蛍光ペンの丸に閉じ込められている
春を待ったぶん何にも無いけれど
つい燥ぎ過ぎた春なのタコライス
白子^{タツ}を喰うおんなの口を見ているが
ムズいとかバズるんだとか雛祭り
砂時計は春のテンポで落ちてくる
危うさが手に触れた春の雪
嘘っぽい名残りの空がうつくしい
見失う逃げ場にプチプチをつぶす
相対的貧困容赦なく芽吹きます
届いた言葉にびつしりと結露
眠くなる前に眠ってしまうのです
さくらさくら私の陣地はどのあたり
返してよあなたにあげた薄緑

齋藤泰子
一 帆
宮井いずみ
野沢省悟
む さ し
郷田みや
一 帆
吉松澄子
石橋芳山
守田啓子
きさらぎ彼句吾
鳴海賢治
ま き こ
米山明日歌

見ないふりは苦手 戦車進みます

ま き こ

ここからは私に塩をふる時間

米山明日歌

偶然とすれ違いとで出来た丸

まみどり

ミサイルが載ってるパン屋の裏メニュー

む さ し

春が来た時速40キロの別れ

野沢省悟

花の挿せない剣山をもつ 女

芝岡かんえもん

【五客】

膀胱のつぶやきたまに聞きなさい

野沢省悟

洗濯のついでに遺言聞いておく

熊谷冬鼓

ご注文は兎でしたか耳ですか

奈良一艘

年金にドブプラー現象おきている

小野五郎

春ですね般若心経の余白すら

笹田隆志

【人位】

体臭になつてしまつたさようなら

きさらぎ彼句吾

【地位】

騙そうと桃色の端をくすぐる

芝岡かんえもん

【天位】

「、」を「。」に変えて女子会へ

須藤しのすけ

『この作り方はずるい(笑)』

深艘心理

奈良一艘がとことん深読む

AはBを手に取りCとDした

Sin

(会員雑詠集 無人駅2月号より)

うーむ。困った。なんでこの句を選んだのだろう。自分でよく分からない。が、深艘心理的に捉えてみる事にしよう。

掲句のA B C Dに何を当てはめるかでこの句は全く変わってくる。

先ずAは人物。自身かも知れないし親しい人かも知れない。Bは「手に取り」だから、何かの物体だろう。そしてCは「と」だからAではない別の人物、或いは動物だろうか。最後のDは「した」とあるので、何かの動作なのだろう。例えば「鈴木さんはリードを手に取り愛犬と散歩した」もあるし、「役者は台本を手に取り女優と芝居した」もありだ。「少年Aは寿司を手に取り悠然とナメナメした」などと最近のショッキングな出来事も当てはまる。しかしそれではあまりにも報告句で終わって

しまう。

作者は次のおかしょうきを担う精鋭の作家。そんな単純な報告句を書くような方ではない。

とすれば、Aは人物とは限らず何らかの比喩であり、Cも形容詞、或いは副詞なのかも知れない。例えばだ、「風は枯葉を手に取りしみじみと懺悔した」…とかはどうだろうか？なんかよく分からないけど、少しは川柳らしくなってきたではないか。

ただどなあゝ作者は何故AとかBとかのアルファベットにしたのだろうか？

もしかししたら、これは報告句への警鐘？それとも感受性のテスト？読み手は何を試されているのだろうか…。うーむ、分からん(汗)

川柳吟行会「ぽ」課題『匂う』

黒猫の肉球 夜が匂いたつ

宮井いずみ

「匂う」からの発想、飛躍、物語性を堪能させていただいた。見つけとしての肉球、白猫虎猫でも無く黒猫、やや、既視感はあるが、場面設定の夜、短編小説的読後感。

アスファルトの匂いを嗅いでみる土下座

小野善江

立ち止まされた作品。題詠のイメージを裏切る力強い作品。

(彰子)

【7点】特×2・佳×3

黒猫の肉球 夜が匂いたつ

宮井いずみ

【善江】猫の魅力はたくさんありますが、その中でも「肉球」は大きなポイントです。肉球の色は様々なバリエー

なものと後天的なものを見ると言われる。どっちの手の匂いが好きなのでしょう、おもしろいね。

【6点】特×3

弱虫のにおいを隠すキャラメリゼ

宮井いずみ

【達雄】なぜか納得しました。そういう匂いだったのかと。弱さを隠そうとする意志と内面に潜む弱さ脆さに詩情を感じました。【写生】キャラメリゼが「弱虫のにおい」に対してうまく機能している。素晴らしい！【かなえ】キャラメリゼが上手い。クリームブリュレなどの甘く焦げた砂糖の匂いが立ち上ってきた。「弱虫」との取り合わせもすごくいい。

【6点】特×2・佳×2

さよならの匂いがしてる春の雪

守田啓子

【柳本恵子】さよならにも匂いがあるんですね。春の雪の寂しさと共鳴しました。【こあき】歌「なごり雪」の情景が見えるようです。早春は旅立ちの季節で、別れの季節でもあるのです。【朱美】お別れの季節を受け止めることにする。【文音】さよならが春の雪に付き過ぎて

ションがあつて、「匂いたつ」のは黒猫にピンクの肉球コンビでしょう。【吉見恵子】黒猫の肉球から夜が広がってゆくようだ。感覚的な匂。【達雄】黒猫と戯れていても、匂い立つのは孤独・虚無・戦争？【写生】黒猫Ⅱ夜、は直線的であるが、肉球が上手に直線をかわしている。【隆志】黒猫の足裏の肉球が闇に光ると、怖い夜の匂いが漂います。

左手と違う匂いのする右手

須藤しんのすけ

【朱美】悪いことをするのもいいことをするのも右手なんだろう。一度冒した罪は消えない。【五郎】句そのものが異様な匂いを生々しく発散している。【善江】そっか！両手は同じ匂いだとはかり思っていましたが目からウロコです。【冬鼓】考え事している時の右手は無意識に何かを探してる。【ふぶき】手相では右と左は先天的

いる気もしましたが万物の流動の匂いを感じました。

【6点】特×1・佳×4

赤信号となりの人のシトラス系

福田文音

【隆志】急ぎの用事で出かけ、信号待ちの時間、となりに乗っている人の香りに癒されたことを思い出しました。【彰子】柑橘系の香りは、ジャン・ポール・ベルモンド。【州花】香りにも時代がある。母のヘリオトロップは今もあるのだろうか。【しんのすけ】爽快・清涼・新鮮な感じに恋が始まりそう。【かなえ】「赤信号」と「シトラス系」が意味深で、ズルくない(笑)

【5点】特×1・佳×3

如月の紙の匂いのする日差し

笹田かなえ

【冬鼓】2月の日差しは否応なしに春を思わせる。紙の匂いとした作者の感覚が詩的。【写生】「紙の匂い」にやや既視感を感じたが句のまとまりがいい。【いずみ】2月の日差しは光の春の序曲。清潔でやわらかい。【州花】如月のひとときの日差しなんと嬉しいこと。

焚き染める白檀 遺影にいだかれる

吉田州花

【規子】お香は確かに人を独特な気持ちにさせる。私にも遺影を見るだけで会いたくて仕方なくなる人がいます。【吉見恵子】匂いの結界をはって、亡き人と特別な時間を過ごしているようだ。【達雄】そうなのか。この匂いのイメージでお参りします。【ふぶき】遺影の人が白檀の香りを好んでいたのだろう。その香りと共に遺影の人に包まれる気持ちになれるって心とむ思いです。

【4点】特 x 2

雪掴む山羊の乳房の匂いする 岩根彰子

【いづみ】雪と山羊の乳房の対比。どちらも白いが冷たいものと柔らかく暖かいもの。いや、作者にとつて雪は母なるものなのだろうか。【ふぶき】雪の白さでヤギの乳房を思い出したのだろうか、冷たいものと温かなものとの対比、そこに忘れていた匂いが蘇ってくる。不思議だけどおもしろい句だと思います。

【4点】特 x 1・佳 x 2

フアブリーズしてるかも特殊詐欺かも 守田啓子

【さち】書き慣れたうまい人ですね。今の事件にびつたり。けど同じ書き方が続くと飽きられるので要注意と

んのすけ】作曲家リストに対するリスペクトを感じる。

地吹雪は蒲焼き食べて来たらしい 小野五郎

【文音】何とも微笑ましい家族の一面を見ました。地吹雪で蒲焼きの匂いを消したつもりの主人を「来たらしい」と一瞥したあなたの匂いを想像しました。【かなえ】地吹雪のエネルギ―源を蒲焼きにしたのが、したたかでユーモラス。

【2点】特 x 1

炊き立てのご飯ふつくら 大丈夫 吉見恵子

【啓子】避けては通れない出来事が一字あけに見える。「大丈夫」と言い聞かせるのに十分な「匂い」。鋭い五感を感じる。

【2点】佳 x 2

カサブランカ過ぎ去ったこと逝った人 渡邊こあき

【啓子】この花には私も思い出が・・・共感の1句。【柳本恵子】カサブランカの甘く濃厚な匂いに包まれました。

きみの正義とわたしの正義雪におう 吉見恵子

思う。【規子】特殊詐欺とフアブリーズの組み合わせ絶妙です。【五郎】前半部と後半部の衝突がすごい。

アスファルトの匂いを嗅いでみる土下座 小野善江

【しんのすけ】アスファルトを嗅ぐ為の土下座って、周囲へのドッキリみたいで面白い。絶対笑いを堪えたドヤ顔に違いない。【彰子】現代の他人事的かほりがプーン。【こあき】土下座をポジティブにとらえて面白い。

おしなべてカレライスな金曜日 笹田かなえ

【州花】カレライスな金曜がくるのは土曜が休みの人なんだと思った。【善江】金曜日はどの家からもカレライの匂いがしたものでした。【文音】「おしなべて」が極々普通であることの幸せをカレライスで表現しているように思います。

【3点】特 x 1・佳 x 1

ラ・カンパネラ手から絶滅する匂い 月波与生

【彰子】匂いの消える様をラ・カンパネラの手のクローズアップに語らせた技。石段を駆ける足音を聴きました。【し

【柳本恵子】それぞれの正義は違う君と私の正義も。分り合えないものだろう。【冬鼓】折り合いをつけることのできない二人。雪の匂いは諦めの境地か。

ノルウェイの森の匂いを誤読する 月波与生

【吉見恵子】村上春樹の「ノルウェイの森」の誤読を「森の匂い」で表現している。新しい気づきでもあったのだろうか。【隆志】村上春樹ファンとしては、匂いであれ何であれ誤読しないでほしいです。

【1点】佳 x 1

春の匂いの消しゴムを持つ少女来る 小野善江

枝豆が匂う気がして急ぐ路地 滋野さち

マーキングしました母の炊き込みご飯 岩根彰子

堤橋の向こうが匂う海は春 福田文音

明日から使うあなたと同じシャンプー 須藤しんのすけ

湿布ペロン春のしずくを聴いている 熊谷冬鼓

エラ呼吸して磯の香を懐かしむ 夏草ふぶき

生きづらさかかえた匂い雲間から 笹田隆志

十和田たてがみ川柳会二月句会

○参加者 久保あざみ・斉藤蛙井・佐藤まさあき・
瀧尻善英・中村英三・福田芳記・村上昌子・高田
幸柳
○投句者 磯島雅男・木村奈生美・城後朱美

■席題『掴む』 中村 英三 選

【平抜き】

人混みで子の手を掴む母の愛 福田 芳記
権力を掴めば覆る正義 瀧尻 善英
ウクライナ子の手離さず前を向く 高田 幸柳
憎い人私の心掴み取る 佐藤まさあき
夢希望掴み離さぬ赤子の手 高田 幸柳
札束を濡れ手で粟の夢を見た 村上 昌子
どん底の藁は菩薩の手に見える 瀧尻 善英
掴んだと思った途端に切れていた 福田 芳記
目が不自由走者が掴む綱一つ 村上 昌子
【秀逸】
子等の詠む川柳ハート掴まれる 村上 昌子

■宿題『しゃしゃ』 高田 幸柳 選

【平抜き】

化粧水肌に馴染んだ嬉しい日 佐藤まさあき
風呂あがりつやつや顔の好々爺 中村 英三
つやつやのリング思わず丸かじり 中村 英三
つやつやの肌に憧れ露天風呂 久保あざみ
春の陽を受けるつやつや露の臺 齊藤 蛙井
トラブルの前はつやつや肌ざわり 磯島 雅男
金持ちとつやつや顔が思わせる 福田 芳記
つやつやのマニキュア黒が自己主張 齊藤 蛙井
塗り重ね磨いてつやつや津軽塗り 福田 芳記
つやつやの茄子よお前は何を乞う 城後 朱美
下取りへ クルマ洗って売りに出す 瀧尻 善英
櫛を梳く光に映える洗い髪 佐藤まさあき
【秀逸】
パドックで勝負を決める馬の艶 瀧尻 善英
喪が明けて徐々に輝き出す女 木村奈生美
【特選】
永平寺 回廊磨く修行僧 瀧尻 善英

【特選】
掴めそうだけど掴めぬ青い鳥 佐藤まさあき
肩車 一番星を掴めそう 瀧尻 善英

■席題『掴む』 瀧尻 善英 選

【平抜き】

掴めそうだけど掴めぬ青い鳥 佐藤まさあき
憎い人私の心掴み取る 佐藤まさあき
料理して掴んだ宝は女房殿 齋藤 蛙井
子等の詠む川柳ハート掴まれる 村上 昌子
掴んだと思った途端に切れていた 齊藤 蛙井
ウクライナ子の手離さず前を向く 高田 幸柳
犯人を防犯カメラ掴んでる 福田 芳記
白旗をあげても命離さない 村上 昌子
人混みで子の手を掴む母の愛 福田 芳記
【秀逸】
トランプでジョーカー掴み明日を見る 久保あざみ
札束を濡れ手で粟の夢を見た 村上 昌子
【特選】
努力してチャンス掴む実力派 中村 英三

■宿題『しんじ』 瀧尻 善英 選

【平抜き】

名が出ない恥かきながら「君の名は？」 村上 昌子
息を吐くついでにストレスでも吐こう 木村奈生美
猫撫での依頼ついでに毒を吐く 高田 幸柳
ウオーキングついでに寄ったラーメン屋 城後 朱美
ウオーキングカミさんおトーフ念を押す 佐藤まさあき
おしゃべりがついでに寄って長居する 佐藤まさあき
ついでにはできない川柳四苦八苦 中村 英三
親であれ立つたついでに頼み事 福田 芳記
四捨五入ついでのように捨てられた 齊藤 蛙井
舞い上がる風へ序に願ひ事 磯島 雅男
さよならがついでのように降ってきた 齊藤 蛙井
買い物ついでに犬と散歩する 久保あざみ
【秀逸】
孫がくる余計なものを買いました 城後 朱美
5時過ぎのライン買い物リストあり 高田 幸柳
【特選】
外交は小判ザメまで空を飛ぶ 村上 昌子

□ 2023.05.31 第 65 回「不浪人賞」・第 53 回「年度賞」候補募集

【応募資格】青森県在住者【応募料】青森県川柳連盟加入吟社に所属している方無料。無所属の方、又連盟だより（結果）の個人送付希望者はその旨を明記のうえ百円切手同封ください。（不浪人賞・年度賞1位に呈賞）【対象作品】2022年1月～12月に発表された作品。「不浪人賞」・「年度賞」のどちらか、または両方の応募可。*2賞への同一句の応募は不可。【応募用紙】所定用紙（コピー可）またはA4の用紙を使用し、楷書で不浪人賞（3句）と年度賞（5句）を分け、それぞれに住所・氏名・電話番号を記入ください*清記選【締切】2023年5月31日（当日消印有効）【発表】大賞の速報を各柳誌に掲載。結果詳細は「青森県川柳連盟だより」にて。尚連盟だよりは基本的に所属吟社に一括送付します。応募の際に所属吟社記入の事。【表彰】2023年9月23日（祝）川柳忌黒石川柳大会にて（予定）*各賞1位に賞状と記念品【送り先】〒038-3288 つがる市木造出来島33 青森県川柳連盟「不浪人賞・年度賞係」宛【選者】☆不浪人賞（6名）渡辺梢（埼玉）・赤松ますみ（大阪）・鎌田京子（宮城）・新家完司（鳥取）・島田駱舟（千葉）・野沢省悟（青森）★年度賞（10名）長谷川酔月（秋田）・熊谷岳朗（岩手）・雫石隆子（宮城）・片倉卯月（山形）・駒木香苑（福島）・千島鉄男・むさし・工藤青夏・笹田かなえ・田鎖晴天【連絡先】青森県川柳連盟事務局 濱山哲也 電話080-5574-9297【主催】青森県川柳連盟

句会、大会、誌上句会などの情報をお寄せください。

info@okajoki.com

※メール本文にベタ打ちでも構いません。

テキストデータで送っていただくと助かります。

◆十和田たてがみ川柳会4月句会案内◆
 【時】4月15日（土）午前10時から 【所】十和田労働福祉会館 【宿題】（各題三句詠）『とんとん』佐藤まさあき選／『とりあえず』福田芳記選 【互選】（一句詠）『どっしり』当日出席者のみ（句せんの裏に柳号記入）
 【席題】一題（三句詠・共選）／選者は、瀧尻善英ほか
 出席者から一名【投句先】〒034-0212 十和田市米田字桜平72 高田幸柳宛

- 宿題『通過』 互選
- ①向い風通過待つてた今チャンス 齊藤 蛙井
 - ①リニア線トンネル知事を通過せず 福田 芳記
 - ①還暦は通過点だと思ふべし 久保あざみ
 - ②えんぶりの子の唄胸に置いてゆく 村上 昌子
 - ②わたくしを通過していく青い鳥 木村奈生美
 - ④人生はマラソン今日も通過点 高田 幸柳
 - ⑤ウニアワビ高めの皿は通過させ 佐藤まさあき

「チャレンジ川柳！むさし流！」のブログはこちらから

■会費拝受【2月受付分】※太字は新会員

田久保亜蘭 (秋田県) / 四ツ屋いずみ (北海道) / 村井隆行 (滋賀県) / 白戸まつ子 (つがる市) / 諏訪タ
香・さいとうみき (以上弘前市)

■おかげょうき川柳社会員募集中！

会員ならびに当誌購読希望の方は、下記の口座までお振り込み下さい。

→郵便振替 No.02280-6-43112 口座名：おかげょうき川柳社

→会費：6,000円 (1年分)

おかげょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko@okajoki.com FAX.017-752-3759
(〒039-3502 青森市久栗坂字浜田 87-2)

終着駅 Sin

◆よく「和食」は「引き算」、「洋食」は「足し算」と言われている。特に海産物の調理方法に至っては、日本のような海に囲まれた島国と違って、欧米の料理は、素材の新鮮さを補うために、これでもかというぐらい、ソースや香辛料を足していく。一方、和食では、魚の生臭みを取り除く「湯引き」、余計な雑味を取り除く「灰汁引き」、素材の旨みだけを引き出す「出汁引き」がある。とことん、素材から雑味も引き、旨みだけを引き、本質だけを味わうのが和食の醍醐味なんだろうと思う。この引き算の美学は食だけではなく、侘び寂びの世界に見られるような、茶道や盆栽、枯山水のような奥ゆかしさの美德とシンクロする。もちろん、文芸の世界においても、短歌の31音字、俳句・川柳の17音字に、無駄を省いた引き算の美学文化が垣間見ることが出来る◆その

短詩文芸の中でも、川柳からすると、31音字の短歌は、削ぎ落としている感じもなく、味付けが濃い「洋食」に感じるもののほうが多い。同じ17音字の俳句も「季語」というソースが、素材を活かす時もある。こと川柳においても、「和食」が絶対ということでもないが、わざわざソースを足すだけ足すようなコッテリ川柳にして同じ土俵で勝負するより、せっかく17音字という短い短詩文芸に携わっているのであれば、言葉の生臭みを取り除く「湯引き」、言葉の雑味を取り除く「灰汁引き」、言葉の旨みだけを引き出す「出汁引き」といった引き算の技法を取り入れた「和食川柳」に挑戦してみるのも面白いかもしれない◆とはいえ、食に関しては、脳卒中になるんじゃないかというぐらいの味が濃いラーメンが大好きなのだが(笑) Sin

おかげょうき川柳社 作品募集案内

□ 2023.04.12 ㄨ 「川柳吟行会 ぼ」4月句会

【投句締切】4月12日(第2水曜日)【題・投句数】『登る』2句【投句・問合せ】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛 *それぞれの地で一人吟行して作句し投句願います。参加者全員による選・選評をメールで交換。入選句・選評等は後日月刊おかげょうきに掲載。メール交換できる方ならおかげょうき会員以外でも参加可。年会費1,000円。

□ 2023.04.20 おかげょうき会員雑詠集「無人駅」5句(6月号分)

【締切】4月20日15時必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句(最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入)【掲載】6/10発行号【ウェブサイトからの投句】http://www.okajoki.com/toku/mujineki.html【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛

□ 2023.05.06 おかげょうき川柳社本社5月句会

【時】5月6日(土)午後1時～【所】アウガ5階小会議室【投句締切】5月5日(金)15時【宿題】(各題3句詠)『触れる』/『音』/『自由詠』【席題】1題3句詠・2人共選。選者は当日の参加者より選出【川柳ラボ】互選句『寿命』1句【ウェブサイトからの投句】http://www.okajoki.com/toku/【メールで直接送信投句】moriko@okajoki.com (守田啓子)

□ 2023.05.10 ㄨ 「川柳吟行会 ぼ」5月句会

【投句締切】5月10日(第2水曜日)【題・投句数】『遊ぶ』2句【投句・問合せ】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛 *それぞれの地で一人吟行して作句し投句願います。参加者全員による選・選評をメールで交換。入選句・選評等は後日月刊おかげょうきに掲載。メール交換できる方ならおかげょうき会員以外でも参加可。年会費1,000円。

□ 2023.05.20 おかげょうき会員雑詠集「無人駅」5句(7月号分)

【締切】5月20日15時必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句(最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入)【掲載】7/10発行号【ウェブサイトからの投句】http://www.okajoki.com/toku/mujineki.html【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛



おかじょうき川柳社：誌上句会

0 番線

- OKAJOKI ZERO LINE -

課題と選者（2句詠・共選）

題：『数』

7/31 〆切

選者

四ツ屋いずみ（北海道）

奈良一艘（青森県）

投句方法

※誠に申し訳ありませんが、郵送・FAXでの応募は受け付けておりません。

【ウェブサイトからの応募】

<http://okajoki.com/toku/0line.html> へアクセスし、作品応募フォームから必要事項を記入して送信してください。

【メールで直接送信する場合】

メール本文内に「作品（2句まで）」「郵便番号」「住所」「氏名または雅号（ふりがな）」「電話番号」を明記し、件名に「0番線」として、守田啓子宛にメール送信してください。＜送信先アドレス：moriko@okajoki.com＞



投句料（※おかじょうき川柳社会員は無料です。）

1,000 円（発表誌呈） *発表誌の送付をもって、投句料受領したものとさせていただきます。

◆振込先：郵便振替 No.02280-6-43112 口座名 おかじょうき川柳社

賞

特選の方に青森県特産品を贈呈。